

だれもが最初はヤバレジだった  
聖路加チーフレジデントが  
あなたをデキるレジデントにします！



ヤバレジ：研修1年目レジデント。まだまだ勉強不足。そのとばけぶりに周囲はやや呆れ気味。



チーフレジ：内科チーフレジデント。2人をフォローし、わかりやすく指導する、頼れる存在。



デキレジ：研修1年目レジデント。基本的な知識はあるが、ピットフォールにはまりがち。



アテンディング：指導医。レジデントのみんなを、やさしく、ときに厳しく見守る。

連載 第9回

# 便通異常入門 ～今日から君も排便スペシャリスト～

小林大輝



First Step：感染性下痢を見抜こう



Second Step：非感染性下痢を見抜こう



Third Step：便秘のスペシャリストになろう

## First Step：感染性下痢を見抜こう

### ①下痢に対する病歴を聴取できるようになろう

- 下痢の程度、性状、随伴症状をまず聞こう（大腸型、小腸型の鑑別に必要）。
- 次に食べ物の中で感染が疑わしいものをチェックしよう（「なまものを食べませんでしたか？」だけでは「No！」と答えられてしまう。「刺身、鶏刺しなどのなまものは？」とピンポイントで聞くこと）。

- 食べ物以外の感染経路を探ろう（周囲に同様の症状の人はいないかなど）。
- 感染以外の病歴も聴取しよう（反復性の下痢か、薬剤を使っていないか）。

### ②大腸型か、小腸型かを考えよう

厳密に分けられないことも多いが、大腸を障害するタイプか小腸を障害するタイプかを考えることで、原因病原体の推測に役立つ（表2参照）。

### ③診断もしくは推測を十分してから治療をしよう

「とりあえず抗菌薬を点滴しておきました！」はダメ。

- ①、②を踏まえてしっかり考えてから治療をしよう。



## Second Step：非感染性下痢を見抜こう

### ①急性下痢症のときは必ず、まず感染性下痢症を考えよう

感染性下痢症は食事・接触歴などの病歴，身体所見から推測しやすい。

### ②感染性下痢症が疑いにくい場合は、非感染性下痢症を考えよう

非感染性下痢症も，やっぱり病歴が幅広い鑑別疾患のどれを疑うかのヒントになる。

### ③非感染性下痢症の鑑別は広いので、疾患の頻度や他の症状と合わせて総合的に判断しよう

## Third Step：便秘のスペシャリストになろう

### ①病歴，身体診察から便秘の状態を正確に把握しよう

単なる便秘症と決めつけずに，器質的疾患が基礎にあり，便秘を起こしていないかをきっちり把握しよう。

### ②便秘の基礎疾患を検索しよう

とくに外科的処置が必要なもの（大腸癌，直腸癌など閉塞性疾患，手術が必要な腸閉塞）は見逃さないようにしよう。内科疾患でも便秘を起こす疾患があるので，総合的に判断しよう。①での評価が重要になる。

### ③便秘の性状に合わせた薬剤投与を行おう！

下剤乱用は耐性を生む可能性がある。便秘のタイプをしっかりと考えて薬剤を投与しよう。